

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファッションデザイン演習 I Fashion Design Seminar I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(なし)	なし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
笹崎綾野	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
ファッションデザイン演習 I では、平面製図法で各自の体型に合わせた上半身原型、シャツブラウスの設計に触れ、シャツブラウスを教材として、設計から縫製までの衣服設計の基礎を習得することを目指す。また、人体計測法、衣服製作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識について学ぶ。				
授業の目標				
①衣服造形の基礎(人体計測法、設計法、補正法、製作法)を理解できるようにする。 ②上半身原型、シャツブラウスを製図でき、シャツブラウスを製作できるようにする。 ③アイロン、ミシンなどを適切、且つ安全に使用できるようにする。				
授業の方法				
演習形式。作品製作を取り入れ、衣装設計・製作の実践力の習得を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①人体計測法、平面製図法、型紙作成、裁断、縫製、仕上げの一連の流れを理解でき、人体計測法と平面製図法を実践できる。 ②衣服製作に必要な用具の名称を理解でき、それらを正しく使うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション、人体計測法： 15回の授業内容について説明する。用具の使い方を説明し、実習する。人体計測を行い、各自の採寸表を作成する。			
第2回目	上半身原型製図①： 原型製図についての解説。基本線を作図する。			
第3回目	上半身原型製図②： 後ろ身頃の輪郭線を描く。			
第4回目	上半身原型製図③： 前身頃の輪郭線を描く。			
第5回目	上半身原型製図④： 袖原型を作図する。型紙作製。			
第6回目	上半身原型製図⑤： 上半身原型の身体への適合性について解説。トワール製作。			

第7回目	上半身原型製図⑥： 上半身原型の理論と展開、補正法の解説。レポート作成(上半身原型製図)。	
第8回目	原型の応用「シャツブラウス」製図①： シャツブラウスの種類と名称についての解説。スローパー、後ろ身頃を作図する。	
第9回目	原型の応用「シャツブラウス」製図②： 前身頃を作図する。	
第10回目	原型の応用「シャツブラウス」製図③： 袖原型を基に、デザイン展開する。型紙作製。シャツブラウス補正法の解説。	
第11回目	原型の応用「シャツブラウス」裁断：布の地直しをする。型紙どおりに布を裁断する。	
第12回目	原型の応用「シャツブラウス」縫製①・身頃：縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ブラウスの身頃を縫い合わせ、裾を始末する。身頃に見返しをつける。	
第13回目	原型の応用「シャツブラウス」縫製②・見返し：見返しを作り、身頃と縫い合わせる。	
第14回目	原型の応用「シャツブラウス」縫製③・袖付け：袖を作り、身頃につける。縫代の始末をする。	
第15回目	原型の応用「シャツブラウス」仕上げ、まとめ：上前にボタンホールを作り、ボタンを付ける。アイロンをかけ、仕上げる。講評。レポート作成(シャツブラウス)。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	遅刻、欠席がなく、積極的に授業に参加している。
レポート	20%	工程、方法について、適切にまとまっている。創意工夫がされている。期限内に提出されている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	10%	着装評価について、適切に発表できている。
その他	40%	作品が説明通りに仕上がり、完成度の高いものになっている。作品を期限内に仕上げている。
教科書と参考図書		
教科書：中屋典子・三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅰ』 文化出版局、三吉満智子 監修 『服装造形学 理論編Ⅰ』 文化出版局 参考書：佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』		
履修上の留意点・ルール		
演習授業の為、原則、欠席・遅刻を認めない(やむをえない場合は、2/3以上の出席とする)。材料費(布、副資材、ファイル等)は自己負担とする。忘れ物、飲食、私語、携帯電話の使用を禁ずる。		